

長期間の高温に対する農作物等の技術対策

【花 き】

1 高温・乾燥の影響

- (1) キク類では、高温により開花遅延が発生する懸念がある。
- (2) トルコギキョウでは、短茎開花や茎葉の軟弱化等の懸念がある。
- (3) 露地栽培では、葉の萎れ、日焼けや開花遅延が発生する懸念がある。
- (4) 高温・強光により葉色が薄くなり、欠乏症等が発生する場合がある。
- (5) 花木では、土壌が乾燥しすぎると葉焼けや落葉が発生し、樹勢が低下する。
- (6) 花木苗では、葉焼けや萎凋が発生し、症状が進むと枯死につながる。
- (7) 高温により発芽率が低下する。

2 対策

- (1) 施設栽培では、ハウスの妻面やサイド、肩部を大きく開放して換気に努め、適切な遮光により、気温や地温、植物体温度の上昇および乾燥を防ぐ。
- (2) 乾燥害を避けるため適宜かん水を行う。かん水は夕方に行い地温の低下を図る。また、水量が確保できれば畝間かん水を行うが、地温の低下を図るためできるだけ日没後に行う。
- (3) 少量多かん水を行い植物体及び地温の低下を図る。
- (4) キク類の施設栽培では開花遅延を防止するため日長処理を徹底する。但し、シェードによる換気率の低下から施設内が高温にならないよう暗期はシェード被覆を開放する。
- (5) 必要に応じて、液肥施用や葉面散布を実施する。
- (6) 収穫は早朝等の比較的気温の低い時間帯に行う。鮮度保持剤を活用し、清潔な水で水揚げする。
- (7) 露地では白マルチや敷きわら等を行い、根域の水分保持と昇温抑制に努める。
- (8) 高温乾燥時は、特に害虫（カメムシ類、ヤガ類、アザミウマ類、ハダニ類）等が発生しやすくなるため、早期発見・早期防除に努める。ただし、高温条件下での薬剤散布は、薬害発生リスクが高いため、早朝等気温の低い時間帯に防除を行う。
- (9) 必要であれば冷蔵庫や冷房施設の利用も検討する。